

学校法人名古屋学院 2024年度事業報告書

法人の概要

1887年7月 愛知英語学校として創立
1887年9月 名古屋英和学校に校名改称
1906年9月 名古屋中学校に校名改称
1948年4月 名古屋高等学校を設置
1968年4月 名古屋学院中学校、名古屋学院高等学校に校名改称
2000年4月 名古屋中学校、名古屋高等学校に校名改称
2010年4月 新校舎竣工

生徒数（2024年5月1日）

中学校 799名
高等学校普通課程 1,455名

中学校

学年	収容定員	生徒数	学級数
1年生	252名	269名	7
2年生	252名	260名	7
3年生	252名	270名	7
合計	756名	799名	21

高等学校普通科

学年	収容定員	生徒数	学級数
1年生	520名	462名	12
2年生	520名	495名	13
3年生	520名	498名	13
合計	1,560名	1,455名	38

教職員数（2024年5月1日）

専任教員 125名
専任事務職員 18名

役員・評議員数（2024年5月1日）

法人役員 理事11名、監事2名
理事会 毎月開催（8月を除く）
法人評議員 25名
評議員会 5月、9月、11月、3月に開催（9月、11月は臨時評議員会）

事業の概要

基本方針

建学の精神を教育の根幹に据え、歴史と伝統を継承発展させ、本校の特色教育を一層充実させるものとする。

教育事業

《全般的事業》

- 各種式典や修養会、スキー実習、研修旅行、修学旅行、文化祭、体育祭などの学校行事は通常通り実施した。
- 大学進学実績について現役・既卒生合わせて国公立大学合格者数は 205 名であった。東京大 1 名、京都大 5 名、大阪大 11 名、北海道大 12 名、名古屋大 29 名など、難関 10 国立大学に 67 名が合格した。また、国公立大学医学部医学科合格者は 18 名となった。

《教育条件整備》

- 次年度に向けて教育職員 8 名・嘱託教員 1 名・事務職員 2 名を新規採用した。
- 授業担当者全員へタブレット端末を貸与し、校務支援システム BLEND の活用など ICT 教育面での効率向上や、生徒家庭との連絡円滑化、紙使用の軽減を継続して推進した。
- 学校カウンセラー 2 名及び養護教諭を中心として生徒の心のケアに当たる一方「いじめ不登校対策連絡会」を定期的に行い情報共有や具体的対処について意見交換を行い、学校全体で共有した。また、新たにスクールソーシャルワーカーを採用し前述の連携体制を強化した。

《生徒募集広報活動》

- 高校生徒募集における広報活動について、本校主催の学校説明会は 3 回実施した。また、学習塾訪問および公立中学校訪問は、愛知県全域及び岐阜と幅広く訪問して丁寧な説明に努め、学校ホームページ、Facebook、Instagram などの SNS を利用した広報活動も継続した。
- 中学生徒募集においては、私立中学進学フェアや塾主催の合同相談会参加、学習塾訪問を中心に広報活動を行った。また、本校主催の学校説明会を年 4 回実施した。

《入試政策・入試結果》

- 中学 252 名 7 クラス、高校の外部募集 216 名 6 クラスとする入試政策を立案した。
- 中学入試の総志願者は過去最高の 1,594 名 (+96) となった。近年の合格者数と登録人数を慎重に考え、かつ学力レベルが下がることのないように合格者を 821 名とした。最終的には 290 名の 7 クラス編制となった。
- 高校入試では、推薦入試志願者が 212 名（昨年比+31、以下同）と増加したが、試験日程の変更等により、一般入試志願者数は 779 名（△363）と減少し、総志願者数は 991 名（△332）と昨年度より大幅に減少した。
- 推薦入試では一般入試の入学者数を考慮し合格率を昨年と同様に 68.9% と例年

よりも低く設定した。一方、一般入試では推薦入試での入学者が増えたこと、また募集クラス数を減らしたことからも合格者を減らさざるを得ず、合格率は近年では最も低い 53.6%とした。結果、208 名が入学し、選抜 2 クラス、文理 3 クラスの計 5 クラス編制となった。

《進学指導》

- ・「敬神愛人」の精神を備えた紳士を育て、社会に貢献できる人財を育成することを目標としている。大学進学希望に応えるため、各学年がそれぞれ進学講座や進路を意識した取組を展開した。
- ・2024 年度の国公立大学の合格者数は現役生 162 名、既卒生 43 名の合計 205 名であった。(2023 年度：現役生 123 名、既卒生 41 名、合計 164 名)
- ・難関 10 国立大学の合格者数は現役生 55 名、既卒生 12 名の合計 67 名であった。(2023 年度：現役生 39 名、既卒生 7 名、合計 46 名)
- ・難関 14 私立大学の合格者数は現役生 409 名、既卒生 87 名の合計 496 名であった。(2023 年度：現役生 398 名、既卒生 154 名、合計 552 名)

主だった合格者数は以下の通りである。※括弧内は現役生の合格者数

【難関 10 国立大】

東京大学 1 名 (0) 、京都大学 5 名 (3) 、名古屋大学 29 名 (28)
大阪大学 11 名 (9) 、北海道大学 12 名 (7) 、東北大学 2 名 (1)
九州大学 1 名 (1) 、東京科学大学 1 名 (1) 、一橋大学 1 名 (1)
神戸大学 4 名 (4)

【難関 14 私立大学】

早稲田大学 24 名 (22) 、慶應義塾大学 18 名 (12) 、上智大学 8 名 (6)
国際基督教大学 2 名 (2) 、立教大学 8 名 (6) 、明治大学 56 名 (48)
中央大学 18 名 (13) 、法政大学 23 名 (17) 、東京理科大学 38 名 (22)
青山学院大学 26 名 (23) 、同志社大学 87 名 (73) 、関西学院大学 36 名 (35)
立命館大学 129 名 (110) 、関西大学 23 名 (20)

【医歯薬獣医学科の合格者内訳】

医学部医学科	国公立 18 名 (8)	私立 48 名 (17)
歯学部歯学科	国公立 4 名 (1)	私立 26 名 (15)
薬学部薬学科	国公立 3 名 (3)	私立 49 名 (43)
獣医学科	国公立 3 名 (2)	私立 21 名 (10)

《国際交流》

海外語学研修は、イギリスの Rugby School、カナダの St. Michael's University School、オーストラリアの Iona College で実施した。また、1 月下旬から 2 か月間 Iona College にてターム留学を実施した。さらに、8 月に白馬村にて英語研修も行った。

法人事業

《施設設備の概要》 ※括弧内は総工事費、工事規模順に抜粋

- ・チャペル棟空調機更新工事 (4,537 万円)
- ・変電施設改修工事 (542 万円)
- ・学内歩道段差改修工事 (524 万円)
- ・チャペル棟技術室空調機新設工事 (462 万円)
- ・テニスコートフェンス修繕工事 (462 万円) ほか

《規則等の概要》

「2024 年度中に施行したもの」

- ・給与規程、基本給給与表を改定し、教職員給与のベースアップを実施した。
- ・給与規程付表 5 の内、クラブ活動指導手当の支給単価を改定した。

「2025 年 4 月 1 日に施行するもの」

- ・私立学校法改正に合わせて寄附行為を改正した。
- ・多様な働き方が可能となるよう、定年退職者の再雇用に関する細則を改正し、再雇用制度を見直した。
- ・改正育児介護休業法に対応する為、育児介護休業等に関する規程を改正した。
- ・嘱託職員就業規則の内、退職金支給に関する内容を改正した。
- ・評議員報酬を改定した。

《財務の概要》

- ・2024 年度の生徒一人当たり入学時以外の納付金は以下のとおりとなった。

中学校 1・2・3 年 456,000 円 (愛知県平均額約 475,969 円)

高等学校 1・2・3 年 456,000 円 (愛知県平均額約 457,915 円)

- ・2024 年度の地方公共団体補助金は 892,935,732 円であった。その内、愛知県私立学校経常費補助金は 806,101,512 円 (前年度比 11,947,468 円増) が交付され、生徒一人当たりにして高等学校は 368,400 円、中学校は 339,400 円であった。前年度比増の主な原因是、生徒一人当たり単価の増額によるものであった。他に愛知県私立高等学校等授業料軽減補助金 48,649,300 円、愛知県私立高等学校等入学納付金補助金 21,300,000 円、愛知県施設設備整備費補助金 8,705,000 円などが交付された。

《事業活動収支計算書》

- ・事業活動収支計算書は、経常的な収支と臨時的な収支に分かれており、事業活動収入及び支出を明らかにしたものである。
- ・2024 年度の事業活動収入は 21 億 3,845 万円となった。一方、減価償却額を含む事業活動支出は 21 億 9,333 万円で、基本金組入前当年度収支差額は 5,489 万円の赤字。基本金組入額 1,858 万円をさらに引いた結果、当年度収支差額は 7,347 万円の赤字となった。

《資金収支計算書》

- ・資金収支計算書は、支払資金の収入、支出の顛末を明らかにしたものである。
- ・2024 年度の資金規模は 33 億 7,224 万円（前年度比 4 億 7025 万円減）で、翌年度 繰越支払資金は 11 億 5,749 万円（前年度末比 5,442 万円減）となった。
- ・退職給与引当金特定資産として 900 万円、減価償却引当特定資産として 1 億円、 修繕引当特定資産として 3,000 万円の繰入を行った。

《貸借対照表》

- ・貸借対照表は、資産の部、負債の部、純資産の部からなっており、毎会計年度末における財務状態を明らかにしたものである。
- ・2024 年度末における資産の部合計は 75 億 5,723 万円であった。負債の部の合計は 5 億 3,433 万円で、純資産の部の合計は 70 億 2,291 万円（前年度比 5,489 万円減）となった。

※添付計算書類

収支計算書、貸借対照表

《その他》

●私立学校法の改正、寄附行為変更認可

私立学校法の改正に伴い、2025 年 1 月 14 日付けで愛知県知事より寄附行為変更 認可を受けた。

●特別会議・委員会開催

学院の将来構想について、将来構想検討委員会において検討を継続し、 2024 年度報告をまとめた。

●敬愛寄付金の募集継続

5 月 1 日より第 2 期敬愛寄付金の募集を開始し、3 月末までに 50 件 671 万円の 寄付があった。

●絵画の寄贈

本校卒業生で府中市美術館館長の藪野健氏より、絵画 25 点の寄贈を受けた。

●タブレット端末の保護者負担額補助

昨年度に引き続き、補助対象条件に該当する家庭について、タブレット端末の 保護者負担額の内、年間 5,000 円の補助を実施した。

●第 3 回役員・教職員ハラスメント講習会の実施

10 月 17 日、全役員・教職員を対象として「ハラスメント講習会」を実施した。